

「戦略」を考える

群馬大学 小林春夫

中堅の年代の群馬大学の先生とお話をして、私が誤解されていることに気が付いたので以下を記しておきたい。

10年程度前から群馬大学で行われている社会人のリカレント教育のための「アナログ・ナレッジ」には私は全く関与していない。この前に5年間行われていた「アナログ・カレッジ」には関与していたが、私はこれで卒業と思っている。

一方、15年前から行われている「群馬大学アナログ集積回路研究会」は継続的に活発に講演会を開催し 累計 360 回を超える。これは私自身、学内教職員・学生にとって貴重な勉強の機会である。外部にも公開し社会人・他大学の方にも聴講していただいている。

<http://kobaweb.ei.st.gunma-u.ac.jp/analog-web/analogworkshop.html>

「古の学者は己の為にし、今の学者は人の為にす。」(論語)

の言葉がある。様々な立場があろうが、私の立場からすれば「アナログ・ナレッジ」は「人の為にす」であり、「群馬大学アナログ集積回路研究会」活動は「己の為にす(自分を高めるために学問をする)」である。

私の研究室は 自分の実力に比べてはるかに繁栄してきていると思っている。これは「アナログ・ナレッジ」等の活動をせず、大学の研究室として本質的なことに自身のエネルギー・時間を注力してきたからだと思っている。

孫子に次の言葉がある。智者ではないが、物事を利益と損失の両方の側面から考えたい。

「智者の慮は必ず利害に雑う」(孫子)

平安朝始まって以来の秀才 菅原道真公は 当時の諸般の事情・状況を考慮し「遣唐使」を中止した。このため大陸との交流の機会は減少したが、逆にそれゆえに日本固有の文化が花開いたと歴史家には評されている。

「戦略」とは「戦い」を「略す」ことである。

「何をするか」ではなく「何をしないか」が重要である。

2018年11月8日

追記

下記に参加し、その中での紹介で「UCLA の工学部では外部機関からの人によるセミナーを頻繁に開催している」との話が印象的である。米国の大学はプラグマティズムの色彩が強く、「実際にやってみて効果的である」ことを行うことが多いと認識している。群馬大学アナログ集積回路研究会でどんどん外部の方を講師として招聘し講演会を開催するというやり方は、工学系の研究室にとって研究教育レベルを向上させるのに非常に効果的であるということを確認できる。

Eコース教職員各位

電気電子コース長の石川赴夫でございます。

千葉先生の長期海外派遣の報告会を、下記のとおり開催いたします。

ご興味のある方は、ご参加くださいますようお願いいたします。

記

日時：12月18日（火）14時30分～15時00分

場所：3号館電気電子棟 5階E大教室（509室）

発表者：千葉 明人 助教

渡航先：Univ. of California, Los Angeles (UCLA)

対象：教職員，学生